鹿児島の自然だより　第 219 号　　令和６年７月１日　鹿児島県立博物館発行

植物 87

半寄生植物「ヤドリギ」

植物担当　金本　直子

多くの植物は，緑色の部分で光合成を行い，成長に必要な養分をつくっています。しかし植物のなかには，他の植物から養分や水分を横取りして生育する，寄生植物とよばれるものも存在します。さらに，寄生植物のなかには，他の植物から養分などを横取りしつつも，同時に光合成により養分をつくる半寄生をおこなう植物もいます。今回の自然だよりでは，博物館周辺で観察できる半寄生植物の「ヤドリギ」を紹介します。

■　博物館周辺で観察できる「ヤドリギ」

城山自然遊歩道の入口近くには，探勝園という公園があります。この探勝園は，島津藩主である島津重豪氏の庭園として知られており，さまざまな植物が植えられています。ここで，２種のヤドリギを観ることができます。

１種目は，ヒノキバヤドリギで，ヤブツバキやヒサカキなどの常緑樹に寄生し，ヒノキの葉のような形状になるのが特徴です。探勝園では，ヤブツバキの枝から出ている様子を観察することができます。

写真１　ヤブツバキに寄生するヒノキバヤドリギ

２種目は，オオバヤドリギで，カシやタブノキなどの常緑樹に寄生することがほとんどですが，まれに落葉樹に寄生することが知られています。探勝園では，ソメイヨシノやイロハモミジなどの落葉樹に寄生する本種を観察することができます。

写真２　イロハモミジに寄生するオオバヤドリギ

■　ヒノキバヤドリギの種子と散布

写真３　ヒノキバヤドリギの果実

ヒノキバヤドリギの種子は，寄生した植物の樹上で成長し，やがて果実をつけます。果実は熟すと弾け，中にある種子は一定範囲に散布されます。種子は，粘着物質におおわれており，ほかの枝などに効率よく付着することで，寄生することができます。探勝園では，ヒノキバヤドリギが限られた範囲に，多数寄生している様子が確認できます。これは，この植物の種子散布の特徴を反映したものだと考えられます。

■　ヒノキバヤドリギの寄生のようす

ヤブツバキの枝に寄生しているヒノキバヤドリギの結合部分の横断面をつくり，観察しました。(写真４)

写真のように，ヒノキバヤドリギの一部が，枝の周囲を囲むように入り込んでいました。これは，ヒノキバヤドリギの根にあたる部分が，ヤブツバキの維管束に入り込んでいるためであると考えられます。これにより，養分などを横取りしているのです。

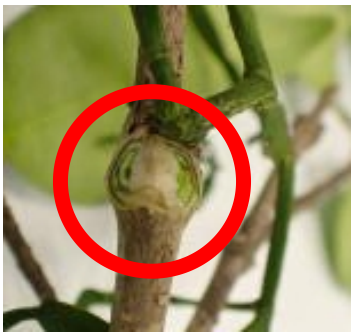

写真４　ヤブツバキとヒノキバヤドリギの結合部分の横断面

様々な特徴をもち，たくましく生育する「ヤドリギ」を博物館周辺で探してみませんか。